

4-4 男性が育児や介護で休みをとることについての考え方

問8 あなたは、男性が育児や介護で休みをとることについて、どのように思いますか。

(1つだけ)

● 男性が育児や介護で休みをとることについての考え方は、「どちらかというと、とったほうがよい」が43.9%で最も高く、これに「積極的にとったほうがよい」(27.3%)をあわせた“とったほうがよい”とする人は71.2%を占めている。一方、“とる必要はない(※2)”とする人は17.1%となっている。

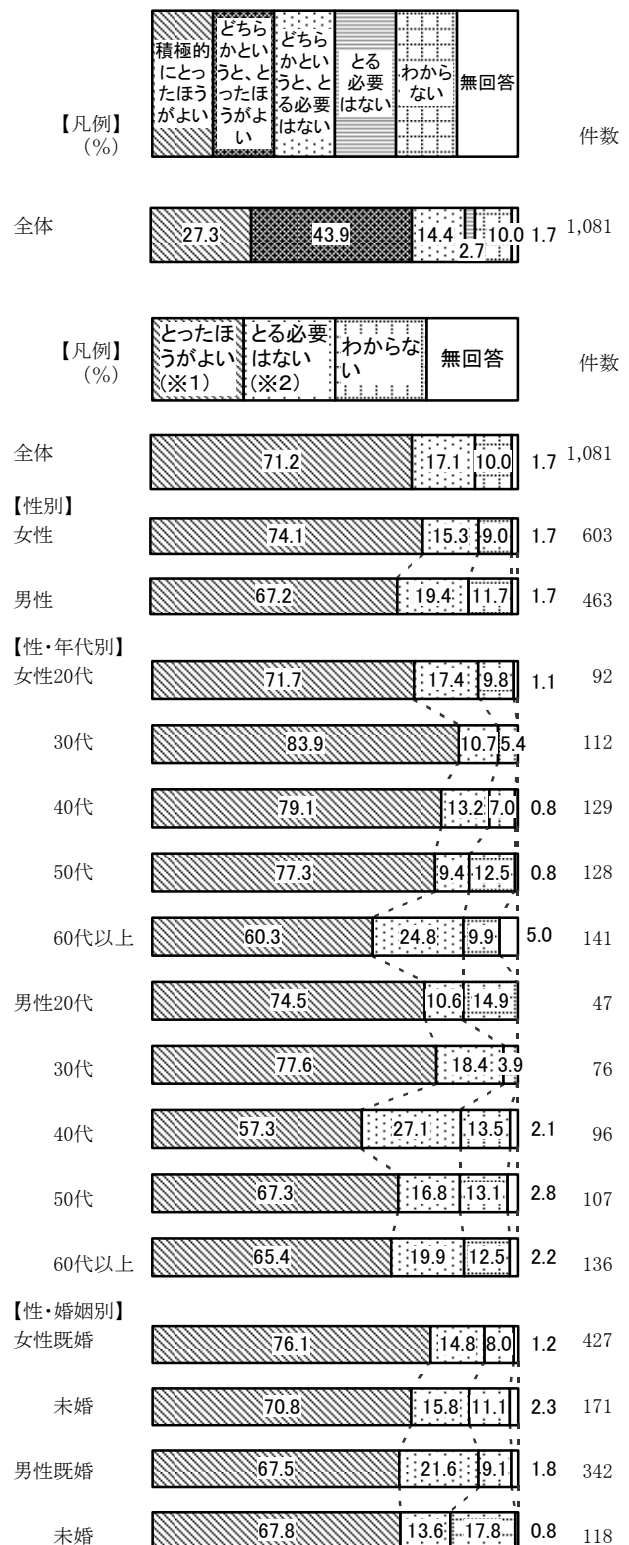
● 性別でみると、“とったほうがよい(※1)”は女性が74.1%、男性は67.2%を占めている。

● 性・年代別でみると、“とる必要はない(※2)”は女性60代以上(24.8%)、男性40代(27.1%)で高くなっている。

● 性・婚姻別でみると、“とったほうがよい(※1)”は女性既婚(76.1%)で高く、“とる必要はない(※2)”は男性既婚(21.6%)で高くなっている。

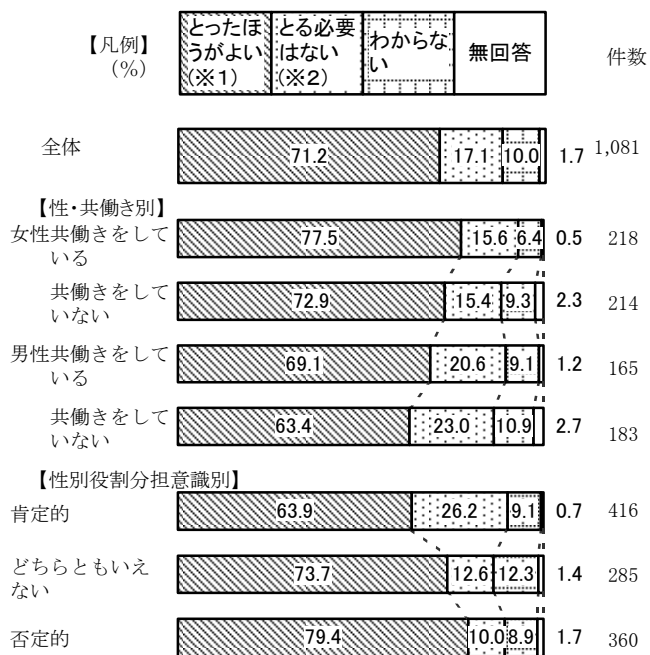
(※1)「積極的にとったほうがよい」「どちらかというと、とったほうがよい」の計

(※2)「とる必要はない」「どちらかというと、とる必要はない」の計



● 性・共働きの状況別でみると、“とったほうがよい（※1）”は共働きをしている女性（77.5%）で高くなっている。

● 性別役割分担意識（問6）別でみると、“とったほうがよい（※1）”は性別役割分担意識に否定的な人（79.4%）で高く、“とる必要はない（※2）”は性別役割分担意識に肯定的な人（26.2%）で高くなっている。



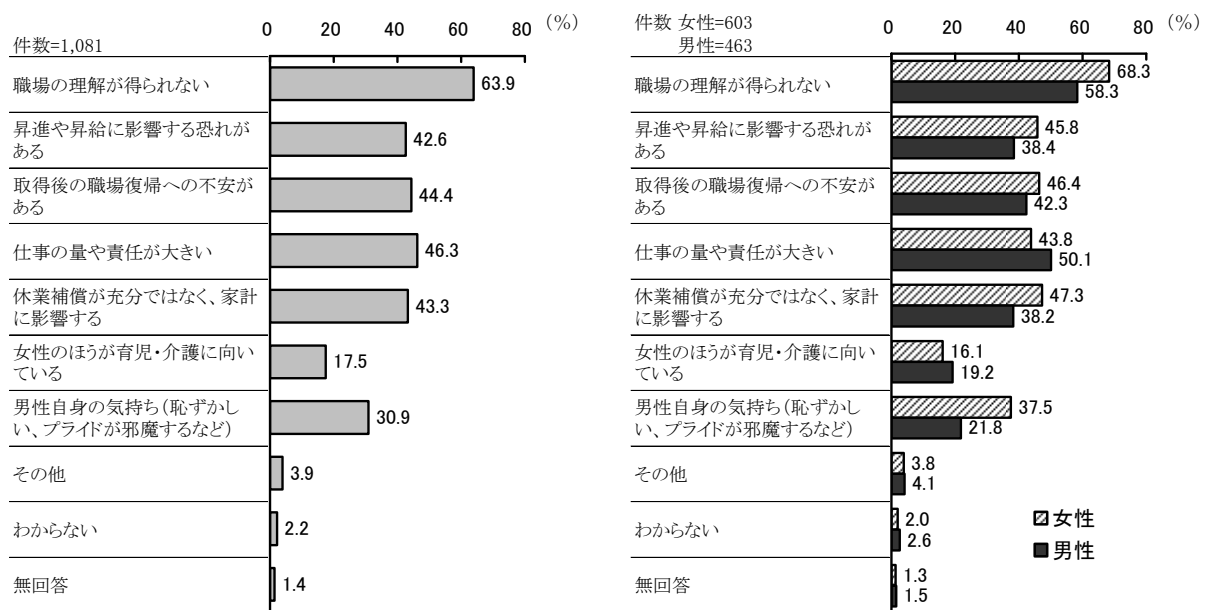
(※1) 「積極的にとったほうがよい」「どちらかという、とったほうがよい」の計

(※2) 「とる必要はない」「どちらかという、とる必要はない」の計

4-5 男性が育児や介護で休みをとらない理由

問9 育児や介護で休みをとる男性が少ない現状にありますか、その理由は何だと思いますか。
(いくつでも)

- 男性が育児や介護で休みをとらない理由については、「職場の理解が得られない」が63.9%で最も高く、次いで「仕事の量や責任が大きい」(46.3%)、「取得後の職場復帰への不安がある」(44.4%)、「休業補償が充分ではなく、家計に影響する」(43.3%)、「昇進や昇給に影響する恐れがある」(42.6%)が4割台で続いている。
- 性別でみると、「職場の理解が得られない」「休業補償が充分ではなく、家計に影響する」「男性自身の気持ち」は、男性よりも女性の割合が高くなっている。
- 性・年代別でみると、「仕事の量や責任が大きい」は男性40代(68.8%)で、「男性自身の気持ち」は女性20代(51.1%)で高くなっている。



	件数	職場の理解が得られない	昇進や昇給に影響する恐れがある	取得後の職場復帰への不安がある	仕事の量や責任が大きい	休業補償が充分ではないが昇進や昇給に影響する	女性に性向のほが育児・介護にむいている	男性自身の気持ち(恥ずかしい、プライドが邪魔するなど)	その他	わからない	無回答	
全体	1081	63.9	42.6	44.4	46.3	43.3	17.5	30.9	3.9	2.2	1.4	
性・年代	女性20代	92	77.2	53.3	46.7	57.6	46.7	15.2	51.1	3.3	2.2	-
	30代	112	73.2	56.3	50.9	52.7	50.0	11.6	39.3	6.3	0.9	-
	40代	129	75.2	51.2	48.1	54.3	51.2	11.6	41.1	4.7	0.8	0.8
	50代	128	71.1	42.2	46.9	38.3	56.3	14.8	37.5	3.1	1.6	0.8
	60代以上	141	49.6	30.5	40.4	23.4	34.0	25.5	24.1	2.1	4.3	4.3
	男性20代	47	63.8	57.4	53.2	42.6	38.3	19.1	21.3	2.1	-	-
	30代	76	71.1	47.4	47.4	60.5	42.1	13.2	21.1	3.9	1.3	-
	40代	96	64.6	41.7	46.9	68.8	37.5	18.8	27.1	5.2	3.1	-
50代	107	54.2	29.9	36.4	51.4	38.3	18.7	24.3	4.7	1.9	1.9	
60代以上	136	48.5	31.6	37.5	33.1	36.0	23.5	16.9	3.7	4.4	3.7	

- 性・共働きの状況別でみると、「職場の理解が得られない」「昇進や昇給に影響する恐れがある」「休業補償が十分ではなく、家計に影響する」は共働きをしている女性で高く、「仕事の量や責任が大きい」は共働きをしている男性（59.4%）で高くなっている。
- 性別役割分担意識（問6）別でみると、「女性のほうが育児・介護に向いている」は性別役割分担意識に肯定的な人（25.0%）で高く、「男性自身の気持ち」は性別役割分担意識に否定的な人（39.2%）で高くなっている。

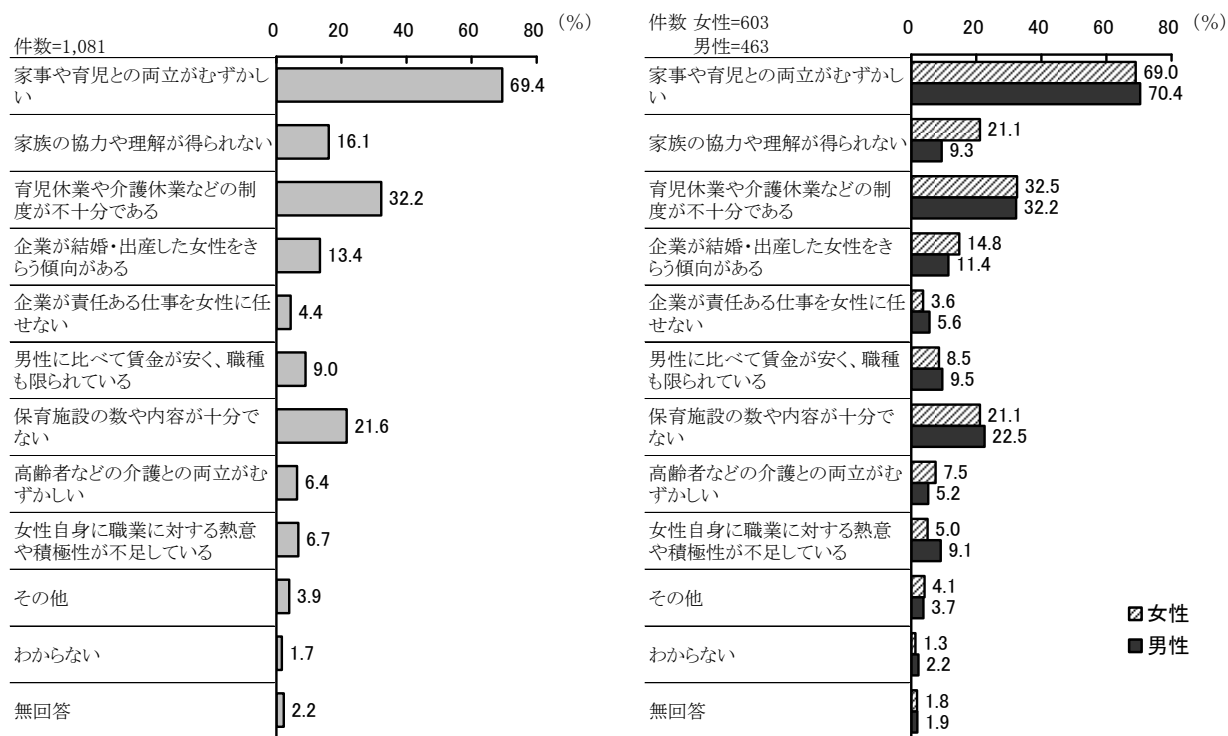
	件数	職場の理解が得られない	昇進や昇給に影響する恐れがある	取得後の職場復帰への不安がある	仕事の量や責任が大きい	休業補償が充分ではなく、家計に影響する	女性のほうが育児・介護に向いている	男性自身の気持ち（恥ずかしい、プライドが邪魔するなど）	その他	わからない	無回答	
全体	1081	63.9	42.6	44.4	46.3	43.3	17.5	30.9	3.9	2.2	1.4	
性・共働き	女性共働きをしている	218	72.9	47.7	50.0	45.9	53.2	16.1	39.0	6.0	0.9	0.5
	共働きをしていない	214	66.4	39.7	45.8	45.3	41.6	16.8	34.1	1.9	2.3	1.9
	男性共働きをしている	165	57.6	39.4	43.0	59.4	43.6	20.6	20.6	6.1	0.6	1.2
	共働きをしていない	183	55.7	36.6	41.5	45.9	35.0	17.5	23.0	2.7	3.3	2.2
性別役割分担意識	肯定的	416	57.0	41.6	45.4	48.1	41.8	25.0	26.9	2.6	1.4	0.5
	どちらともいえない	285	68.8	42.5	43.2	47.4	44.9	14.0	27.4	3.9	2.5	1.4
	否定的	360	69.2	45.3	45.6	44.4	45.0	11.7	39.2	5.6	2.5	1.1

4-6 女性が結婚や出産を機に仕事をやめる理由

問10 結婚や出産を機に仕事をやめる女性がありますが、その理由は何だと思えますか。

(2つまで)

- 女性が結婚や出産を機に仕事をやめる理由については、「家事や育児との両立がむずかしい」が69.4%で他の項目を37ポイント以上引き離して高くなっている。これに次いで、「育児休業や介護休業などの制度が不十分である」が32.2%、「保育施設の数や内容が十分でない」が21.6%などとなっている。
- 性別でみると、「家族の協力や理解が得られない」は男性（9.3%）よりも女性（21.1%）の割合が高くなっている。



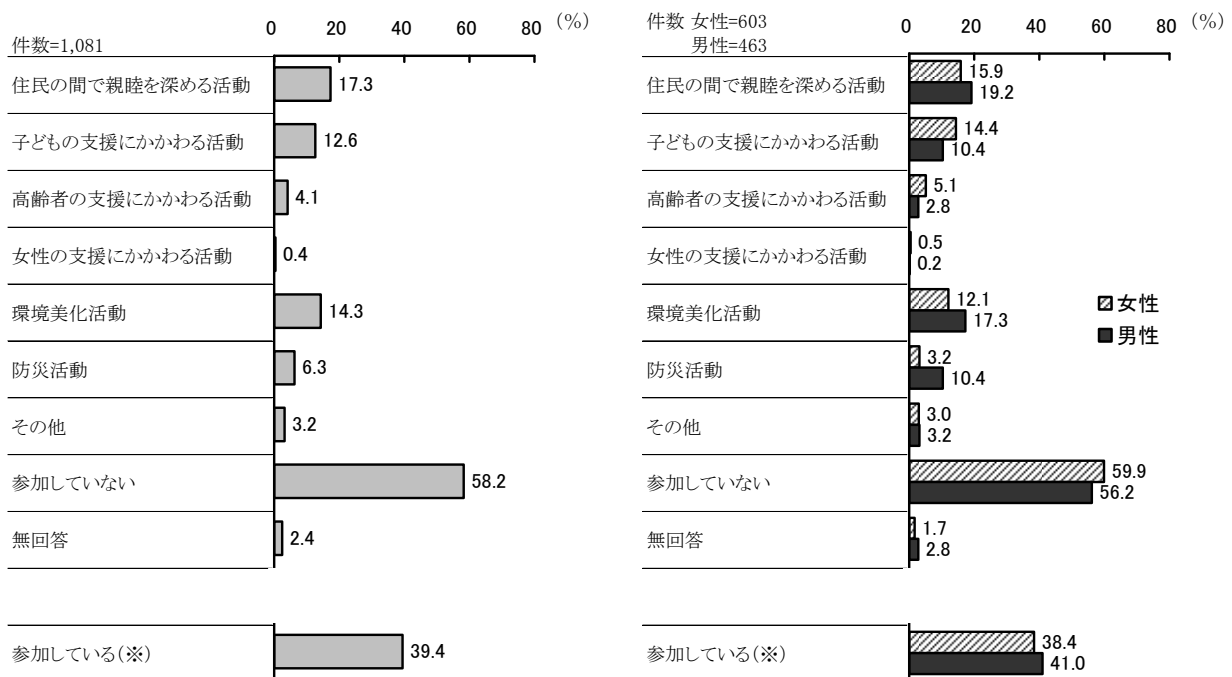
- 性・年代別でみると、「家事や育児との両立がむずかしい」は女性20代（80.4%）、男性40代（81.3%）で8割を超えている。また、「家族の協力や理解が得られない」は女性40代（26.4%）、50代（26.6%）で高くなっている。
- 性・婚姻別でみると、「家族の協力や理解が得られない」は女性既婚（22.5%）で高く、「女性自身に職業に対する熱意や積極性が不足している」は男性未婚（11.9%）で高くなっている。
- 性・共働きの状況別でみると、「家族の協力や理解が得られない」は共働きをしている女性（24.3%）で高くなっている。また、「高齢者等の介護との両立がむずかしい」は共働きをしていない女性（10.3%）で1割を超えている。

	件数	家事や育児との両立がむずかしい	家族の協力や理解が得られない	育児休業や介護休業などの制度が不十分である	企業が結婚・出産した女性をきらい傾向がある	企業が責任ある仕事を女性に任せない	男性に比べて賃金が安く、職種も限られている	保育施設の数や内容が十分でない	高齢者などの介護との両立がむずかしい	女性自身に職業に対する熱意や積極性が不足している	その他	わからない	無回答	
全体	1081	69.4	16.1	32.2	13.4	4.4	9.0	21.6	6.4	6.7	3.9	1.7	2.2	
性・年代	女性20代	92	80.4	21.7	28.3	12.0	5.4	9.8	20.7	2.2	7.6	3.3	2.2	-
	30代	112	73.2	15.2	32.1	21.4	3.6	8.0	21.4	-	7.1	8.0	-	0.9
	40代	129	69.8	26.4	30.2	17.1	5.4	7.8	17.1	8.5	4.7	6.2	-	0.8
	50代	128	65.6	26.6	39.1	14.1	1.6	4.7	24.2	10.2	3.1	2.3	0.8	0.8
	60代以上	141	61.0	14.9	31.2	9.9	2.8	12.1	22.0	13.5	3.5	1.4	3.5	5.7
	男性20代	47	68.1	10.6	38.3	21.3	6.4	4.3	14.9	2.1	12.8	4.3	2.1	-
	30代	76	72.4	9.2	38.2	13.2	1.3	13.2	17.1	5.3	11.8	2.6	1.3	-
	40代	96	81.3	9.4	30.2	7.3	8.3	4.2	16.7	4.2	9.4	6.3	3.1	-
50代	107	65.4	14.0	31.8	7.5	6.5	10.3	28.0	2.8	10.3	3.7	1.9	1.9	
60代以上	136	66.9	5.1	27.9	13.2	5.1	11.8	27.9	8.8	5.1	2.2	2.2	5.1	
性・婚姻	女性既婚	427	68.1	22.5	33.0	14.8	3.7	8.0	21.5	8.0	4.7	4.0	1.2	1.6
	未婚	171	71.3	17.5	32.2	15.2	3.5	9.4	20.5	6.4	5.8	4.7	1.8	1.2
	男性既婚	342	72.2	9.4	33.6	10.5	6.1	9.6	23.1	5.3	7.9	4.1	1.2	1.8
	未婚	118	66.1	9.3	28.0	14.4	4.2	8.5	21.2	5.1	11.9	2.5	5.1	1.7
性・共働き	女性共働きをしている	218	68.3	24.3	29.8	16.5	4.1	9.6	21.6	6.0	5.0	5.0	0.9	0.5
	共働きをしていない	214	66.8	20.1	35.5	13.1	3.7	7.5	21.0	10.3	3.7	2.8	1.4	3.3
	男性共働きをしている	165	73.3	9.7	38.2	6.7	6.1	10.3	23.0	6.1	7.3	4.2	0.6	1.2
	共働きをしていない	183	69.9	8.7	29.5	13.1	6.0	9.3	22.4	4.9	9.3	3.3	2.2	2.7

4-7 参加している地域活動

問11 あなたは、現在、地域のどのような活動に参加していますか。(いくつでも)

- 現在参加している地域活動をみると、何らかの活動に「参加している人(※)」は39.4%で、具体的には「住民の間で親睦を深める活動」(17.3%)、「環境美化活動」(14.3%)、「子どもの支援にかかわる活動」(12.6%)となっている。
- 性別でみると、「防災活動」は女性(3.2%)よりも男性(10.4%)の割合が高くなっている。
- 性・年代別でみると、「子どもの支援にかかわる活動」は女性30代(25.0%)、40代(27.1%)、男性40代(20.8%)で高く、「高齢者の支援にかかわる活動」は女性60代以上(14.2%)で高くなっている。一方、「参加していない」は男女ともに20代で高くなっている。



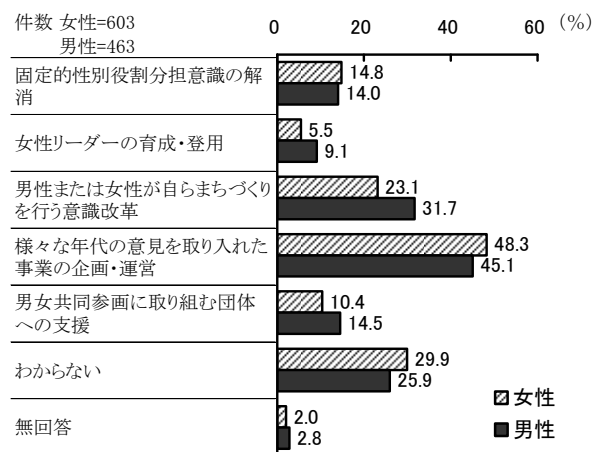
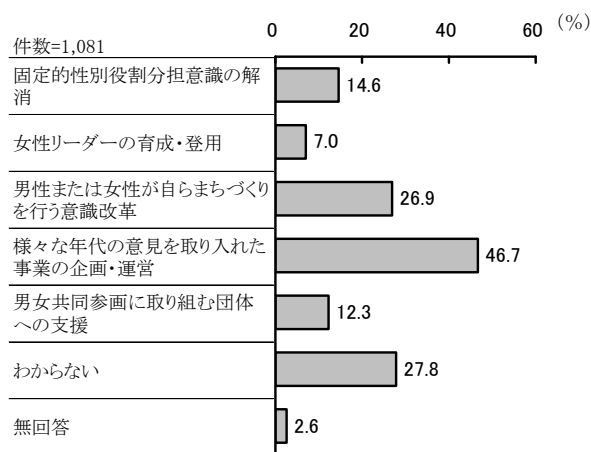
性・年代	件数	深住め民の活間で親睦を	か子ども活の活動で支援にか	か高齢者の活の活動で支援にか	わ女性活の活動で支援にか	環境美化活動	防災活動	その他	参加していない	無回答	(※)参加している		
		全体	1081	17.3	12.6	4.1	0.4	14.3	6.3	3.2	58.2	2.4	39.4
女性	20代	92	4.3	3.3	-	-	5.4	-	-	90.2	-	9.8	
	30代	112	14.3	25.0	1.8	1.8	8.9	0.9	2.7	59.8	0.9	39.3	
	40代	129	19.4	27.1	2.3	-	14.0	1.6	3.1	48.8	-	51.2	
	50代	128	18.8	8.6	4.7	-	13.3	2.3	3.9	61.7	1.6	36.7	
	60代以上	141	19.1	6.4	14.2	0.7	16.3	9.2	4.3	48.9	5.0	46.1	
	男性	20代	47	10.6	2.1	2.1	-	4.3	4.3	-	83.0	-	17.0
		30代	76	11.8	14.5	2.6	-	14.5	3.9	1.3	61.8	2.6	35.6
		40代	96	21.9	20.8	-	-	15.6	13.5	3.1	54.2	-	45.8
		50代	107	19.6	6.5	-	0.9	20.6	13.1	3.7	57.0	1.9	41.1
		60代以上	136	23.5	6.6	7.4	-	21.3	11.8	5.1	44.9	6.6	48.5

(※) 全体から「参加していない」「無回答」を除いた割合

4-8 地域活動が活発になるために必要なこと

問12 あなたは、地域活動が活発になるためには、何が重要だと思いますか。(いくつでも)

- 地域活動が活発になるために必要なことは、「様々な年代の意見を取り入れた事業の企画・運営」が46.7%で最も高く、次いで「男性または女性が自らまちづくりを行う意識改革」が26.9%となっている。
- 性別で見ると、「男性または女性が自らまちづくりを行う意識改革」は女性（23.1%）よりも男性（31.7%）の割合が高くなっている。
- 性・年代別で見ると、「男性または女性が自らまちづくりを行う意識改革」は男性60代以上（36.0%）で、「様々な年代の意見を取り入れた事業の企画・運営」は女性20代（60.9%）で、「男女共同参画に取り組む団体への支援」は男性50代（24.3%）で高くなっている。

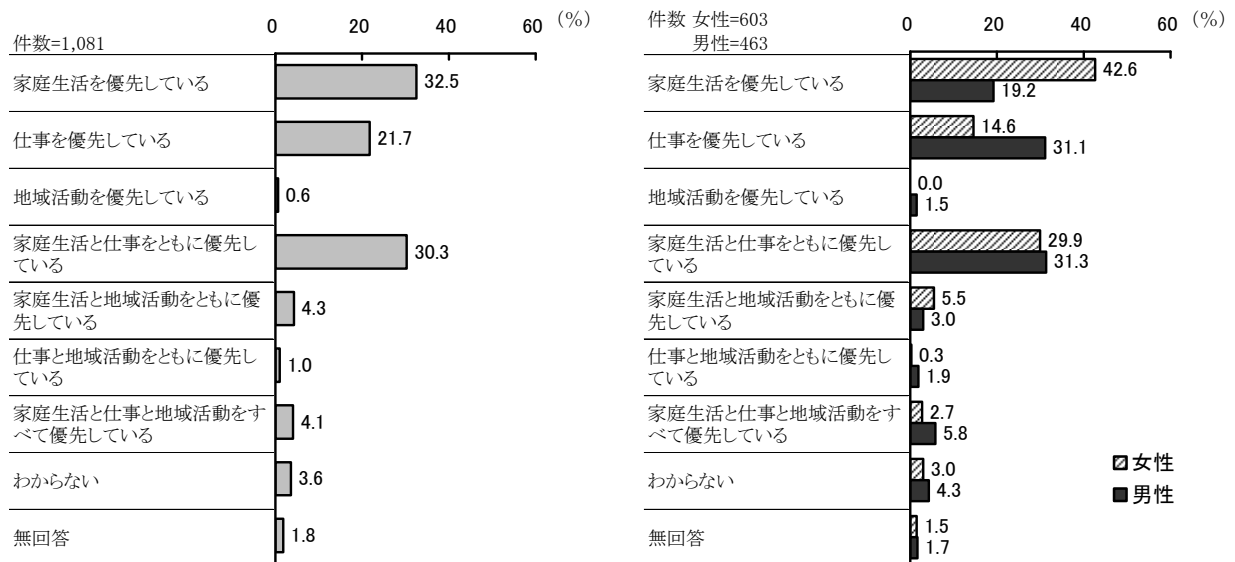


	件数	の固定的性別役割分担意識	用女性リーダーの育成・登用	ち男性づくりたは女性意識改革	入様々な事業の企画・運営	団男女共同参画に取り組む	わ	無回答	
									わからない
全体	1081	14.6	7.0	26.9	46.7	12.3	27.8	2.6	
性・年代	女性20代	92	17.4	3.3	15.2	60.9	9.8	28.3	-
	30代	112	16.1	4.5	15.2	49.1	9.8	32.1	0.9
	40代	129	15.5	2.3	27.1	45.7	9.3	31.0	0.8
	50代	128	15.6	6.3	28.9	46.9	8.6	29.7	2.3
	60代以上	141	10.6	9.2	25.5	42.6	14.2	28.4	5.0
	男性20代	47	4.3	8.5	27.7	46.8	6.4	31.9	-
	30代	76	7.9	9.2	28.9	40.8	14.5	35.5	1.3
	40代	96	10.4	7.3	30.2	50.0	9.4	29.2	1.0
	50代	107	16.8	11.2	30.8	46.7	24.3	23.4	2.8
60代以上	136	20.6	8.8	36.0	42.6	13.2	18.4	5.9	

4-9 現状における家庭生活・仕事・地域活動の関係

問13 家庭生活・仕事・地域活動の関係について、現在の状況では、あなたはどれに該当しますか。(1つだけ)

- 家庭生活・仕事・地域活動の関係について、現在の状況をたずねたところ、「家庭生活を優先している」(32.5%)、「家庭生活と仕事をともに優先している」(30.3%)がそれぞれ約3割を占め、次いで「仕事を優先している」が21.7%となっている。これら以外の項目は5%以下となっている。
- 性別でみると、「家庭生活を優先している」は男性(19.2%)よりも女性(42.6%)で高く、「仕事を優先している」は女性(14.6%)よりも男性(31.1%)で高くなっている。
- 性・年代別でみると、「家庭生活を優先している」は女性30代(56.3%)、60代以上(46.1%)で、「仕事を優先している」は女性20代(38.0%)、男性50代以下で、「家庭生活と仕事をともに優先し地得る」は男女ともに40代で高くなっている。



	件数	家庭生活を優先している	仕事を優先している	地域活動を優先している	家庭生活と仕事をともに優先している	家庭生活と地域活動をともに優先している	仕事と地域活動をともに優先している	家庭生活と仕事と地域活動をすべて優先している	わからない	無回答
全体	1081	32.5	21.7	0.6	30.3	4.3	1.0	4.1	3.6	1.8
性・年代	女性20代	92	29.3	38.0	-	25.0	1.1	-	6.5	-
	30代	112	56.3	10.7	-	25.0	4.5	-	2.7	0.9
	40代	129	38.8	12.4	-	41.1	2.3	-	2.3	0.8
	50代	128	40.6	10.9	-	34.4	7.8	-	3.1	2.3
	60代以上	141	46.1	7.8	-	22.7	9.9	1.4	3.5	3.5
	男性20代	47	17.0	51.1	-	19.1	-	-	4.3	8.5
	30代	76	10.5	40.8	1.3	39.5	-	-	7.9	-
	40代	96	10.4	38.5	1.0	42.7	-	1.0	3.1	3.1
50代	107	9.3	32.7	0.9	37.4	1.9	4.7	6.5	4.7	
60代以上	136	39.0	12.5	2.9	18.4	8.1	2.2	6.6	5.9	

- 性・婚姻別で見ると、「家庭生活を優先している」は女性既婚（52.5%）で高くなっているのに対し、「仕事を優先している」は女性既婚以外で高くなっている。

	件数	家庭生活を優先している	仕事を優先している	地域活動を優先している	家庭生活と仕事をともに優先している	家庭生活と地域活動をともに優先している	仕事と地域活動をともに優先している	家庭生活と仕事をすべて優先している	わからない	無回答	
全体	1081	32.5	21.7	0.6	30.3	4.3	1.0	4.1	3.6	1.8	
性・婚姻	女性既婚	427	52.5	5.6	-	29.7	6.3	0.2	3.0	1.4	1.2
	未婚	171	18.7	36.8	-	30.4	2.9	0.6	1.8	7.0	1.8
	男性既婚	342	21.1	26.3	1.8	35.1	3.8	2.0	7.0	1.5	1.5
	未婚	118	14.4	44.9	0.8	21.2	0.8	1.7	2.5	11.9	1.7

国、愛知県の調査との比較

- 国、愛知県の調査との比較は、選択肢が一部異なるため一概に比較することはできないが、「家庭生活と仕事をともに優先している」は国（21.0%）、愛知県（20.2%）より豊橋市（30.3%）の方が約10ポイント高くなっている。また、「家庭生活を優先している」も愛知県（23.4%）を上回っている（豊橋市32.5%）。一方、「仕事を優先している」「家庭生活と仕事と地域活動をすべて優先している」は愛知県よりも豊橋市の方が低くなっている。

(%)

	家庭生活を優先している	仕事を優先している	地域活動を優先している	家庭生活と仕事をともに優先している	家庭生活と地域活動をともに優先している	仕事と地域活動をともに優先している	家庭生活と仕事と地域活動をすべて優先している	その他	わからない	無回答
国 (H21.10)	33.0	25.8	3.7	21.0	6.7	3.6	4.6	-	1.6	-
女性	44.2	15.3	2.9	21.1	8.5	2.3	4.2	-	1.5	-
男性	20.1	37.8	4.6	21.0	4.6	5.1	5.1	-	1.7	-
愛知県 (H20.9)	23.4	30.2	2.5	20.2	5.8	3.2	8.4	1.0	2.6	2.5
女性	36.0	16.2	2.1	19.9	8.0	2.2	9.5	1.0	2.9	2.3
男性	8.5	46.9	3.0	20.6	3.3	4.4	7.2	0.9	2.4	2.8
豊橋市 (H23.6)	32.5	21.7	0.6	30.3	4.3	1.0	4.1	-	3.6	1.8
女性	42.6	14.6	0.0	29.9	5.5	0.3	2.7	-	3.0	1.5
男性	19.2	31.1	1.5	31.3	3.0	1.9	5.8	-	4.3	1.7

(※) -は、調査をしていない項目

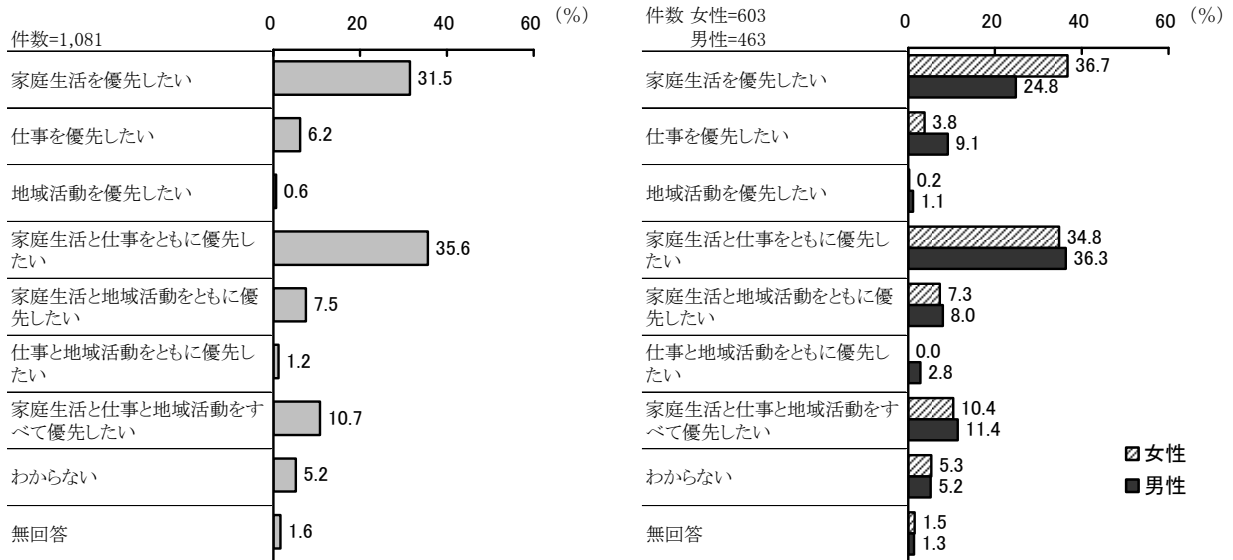
(※) 国、愛知県の調査では「地域活動」は「地域・個人の生活」となっている。

4-10 望ましい家庭生活・仕事・地域活動の関係

問14 家庭生活・仕事・地域活動の関係について、あなたの希望はどれに該当しますか。

(1つだけ)

- 望ましい家庭生活・仕事・地域活動の関係についてたずねたところ、「家庭生活と仕事をともに優先したい」が35.6%で最も高く、次いで「家庭生活を優先したい」が31.5%、「家庭生活と仕事と地域活動をすべて優先したい」が10.7%となっている。
- 性別でみると、「家庭生活を優先したい」は男性（24.8%）よりも女性（36.7%）の割合が高くなっている。
- 性・年代別でみると、「家庭生活を優先したい」は女性30代（43.8%）、40代（41.1%）で高く、「家庭生活と地域活動をともに優先したい」は男女ともに60代以上で高くなっている。



	件数	家庭生活を優先したい	仕事を優先したい	地域活動を優先したい	家庭生活と仕事をともに優先したい	家庭生活と地域活動をともに優先したい	仕事と地域活動をともに優先したい	家庭生活と仕事と地域活動をすべて優先したい	わからない	無回答	
全体	1081	31.5	6.2	0.6	35.6	7.5	1.2	10.7	5.2	1.6	
性・年代	女性20代	92	30.4	7.6	-	46.7	2.2	-	8.7	4.3	-
	30代	112	43.8	-	0.9	39.3	2.7	-	10.7	2.7	-
	40代	129	41.1	3.1	-	42.6	1.6	-	6.2	4.7	0.8
	50代	128	34.4	5.5	-	28.9	9.4	-	15.6	5.5	0.8
	60代以上	141	33.3	3.5	-	22.0	17.7	-	9.9	8.5	5.0
	男性20代	47	29.8	12.8	-	34.0	2.1	2.1	8.5	10.6	-
	30代	76	30.3	13.2	-	44.7	5.3	2.6	3.9	-	-
	40代	96	24.0	9.4	1.0	44.8	1.0	1.0	13.5	5.2	-
50代	107	19.6	8.4	0.9	42.1	1.9	3.7	15.9	5.6	1.9	
60代以上	136	25.0	5.9	2.2	22.1	20.6	3.7	11.8	5.9	2.9	

- 性・婚姻別で見ると、「家庭生活を優先したい」は女性既婚（41.9%）で、「仕事を優先したい」は男性未婚（19.5%）で、「家庭生活と仕事をともに優先したい」は女性未婚（43.9%）で高くなっている。

	件数	家庭生活を優先したい	仕事を優先したい	地域活動を優先したい	家庭生活と仕事をともに優先したい	家庭生活と地域活動をともに優先したい	仕事と地域活動をともに優先したい	家庭生活と仕事をすべて優先したい	わからない	無回答	
全体	1081	31.5	6.2	0.6	35.6	7.5	1.2	10.7	5.2	1.6	
性・婚姻	女性既婚	427	41.9	2.3	0.2	31.6	8.2	-	11.5	3.0	1.2
	未婚	171	23.4	7.6	-	43.9	4.7	-	8.2	10.5	1.8
	男性既婚	342	27.5	5.3	1.2	36.8	9.9	2.6	12.9	2.9	0.9
	未婚	118	17.8	19.5	0.8	34.7	2.5	3.4	7.6	11.9	1.7

国、愛知県の調査との比較

- 国、愛知県の調査との比較は、選択肢が一部異なるため一概に比較することはできないが、「家庭生活と仕事と地域活動をすべて優先したい」は国（16.9%）、愛知県（27.8%）よりも豊橋市（10.7%）の方が低くなっている。一方、「家庭生活を優先したい」「家庭生活と仕事をともに優先したい」は国、愛知県よりも高くなっている。

(%)

	家庭生活を優先したい	仕事を優先したい	地域活動を優先したい	家庭生活と仕事をともに優先したい	家庭生活と地域活動をともに優先したい	仕事と地域活動をともに優先したい	家庭生活と仕事と地域活動をすべて優先したい	その他	わからない	無回答
国 (H21.10)	28.7	8.5	2.2	31.2	7.8	3.6	16.9	-	1.1	-
女性	34.1	4.4	2.1	29.7	9.0	2.5	17.0	-	1.2	-
男性	22.5	13.3	2.3	33.0	6.4	4.8	16.7	-	0.9	-
愛知県 (H20.9)	21.9	4.8	2.6	27.8	9.0	1.7	27.8	0.8	1.2	2.3
女性	25.6	2.1	2.4	23.4	11.1	1.6	29.6	0.8	1.2	2.3
男性	17.5	8.0	2.9	33.1	6.6	2.0	25.6	0.7	1.2	2.4
豊橋市 (H23.6)	31.5	6.2	0.6	35.6	7.5	1.2	10.7	-	5.2	1.6
女性	36.7	3.8	0.2	34.8	7.3	0.0	10.4	-	5.3	1.5
男性	24.8	9.1	1.1	36.3	8.0	2.8	11.4	-	5.2	1.3

(※) -は、調査をしていない項目

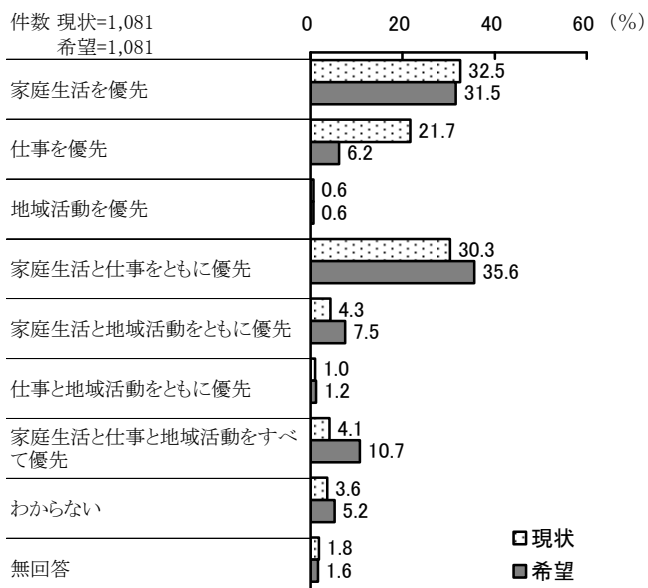
(※) 国、愛知県の調査では「地域活動」は「地域・個人の生活」となっている。

● 現状に比べて、希望している割合が高い項目（希望（問14）と現状（問13）の差）をみると、「家庭生活と仕事をともに優先」（5.3ポイント）、「家庭生活と仕事と地域活動をすべて優先」（6.6ポイント）で希望度が高い状況にある。

● 性別でみると、「家庭生活と仕事と地域活動をすべて優先」は女性（7.7ポイント）で希望度が高い。

● 性・年代別でみると、「家庭生活を優先」は男性20～50代で、「家庭生活と仕事をともに優先」は女性20代（21.7ポイント）、30代（14.3ポイント）、男性20代（14.9ポイント）で、「家庭生活と地域活動をともに優先」は男性60代以上（12.5ポイント）で、「家庭生活と仕事と地域活動をすべて優先」は女性50代（12.5ポイント）、男性40代（10.4ポイント）で希望度が高い。

● 性・共働きの状況別でみると、「家庭生活を優先」は共働きをしている男性（13.3ポイント）で、「家庭生活と仕事をともに優先」は共働きをしていない女性（10.3ポイント）で希望度が高い。



【希望と現状の差】

	件数	家庭生活を優先	仕事を優先	地域活動を優先	家庭生活と仕事をともに優先	家庭生活と仕事と地域活動を優先	仕事と地域活動を優先	家庭生活と仕事と地域活動をすべて優先	わからない	無回答	
全体	1081	-1.0	-15.5	0.0	5.3	3.2	0.2	6.6	1.6	-0.2	
性別	女性	603	-5.9	-10.8	0.2	4.9	1.8	-0.3	7.7	2.3	0.0
	男性	463	5.6	-22.0	-0.4	5.0	5.0	0.9	5.6	0.9	-0.4
性・年代	女性20代	92	1.1	-30.4	0.0	21.7	1.1	0.0	8.7	-2.2	0.0
	30代	112	-12.5	-10.7	0.9	14.3	-1.8	0.0	8.0	1.8	0.0
	40代	129	2.3	-9.3	0.0	1.5	-0.7	0.0	3.9	2.4	0.0
	50代	128	-6.2	-5.4	0.0	-5.5	1.6	0.0	12.5	3.2	0.0
	60代以上	141	-12.8	-4.3	0.0	-0.7	7.8	-1.4	6.4	5.0	0.0
	男性20代	47	12.8	-38.3	0.0	14.9	2.1	2.1	4.2	2.1	0.0
	30代	76	19.8	-27.6	-1.3	5.2	5.3	2.6	-4.0	0.0	0.0
	40代	96	13.6	-29.1	0.0	2.1	1.0	0.0	10.4	2.1	0.0
50代	107	10.3	-24.3	0.0	4.7	0.0	-1.0	9.4	0.9	0.0	
60代以上	136	-14.0	-6.6	-0.7	3.7	12.5	1.5	5.2	0.0	-1.5	
性・婚姻	女性既婚	427	-10.6	-3.3	0.2	1.9	1.9	-0.2	8.5	1.6	0.0
	未婚	171	4.7	-29.2	0.0	13.5	1.8	-0.6	6.4	3.5	0.0
	男性既婚	342	6.4	-21.0	-0.6	1.7	6.1	0.6	5.9	1.4	-0.6
	未婚	118	3.4	-25.4	0.0	13.5	1.7	1.7	5.1	0.0	0.0
性・共働き	女性共働きをしている	218	0.5	-5.5	0.5	-6.8	0.5	0.0	9.7	1.4	0.0
	共働きをしていない	214	-21.5	-1.4	0.0	10.3	3.8	-0.5	7.0	2.3	0.0
	男性共働きをしている	165	13.3	-29.1	-0.6	4.8	5.5	0.0	5.5	1.2	-0.6
	共働きをしていない	183	-0.5	-13.1	-0.6	0.0	6.0	1.7	4.9	2.2	-0.6

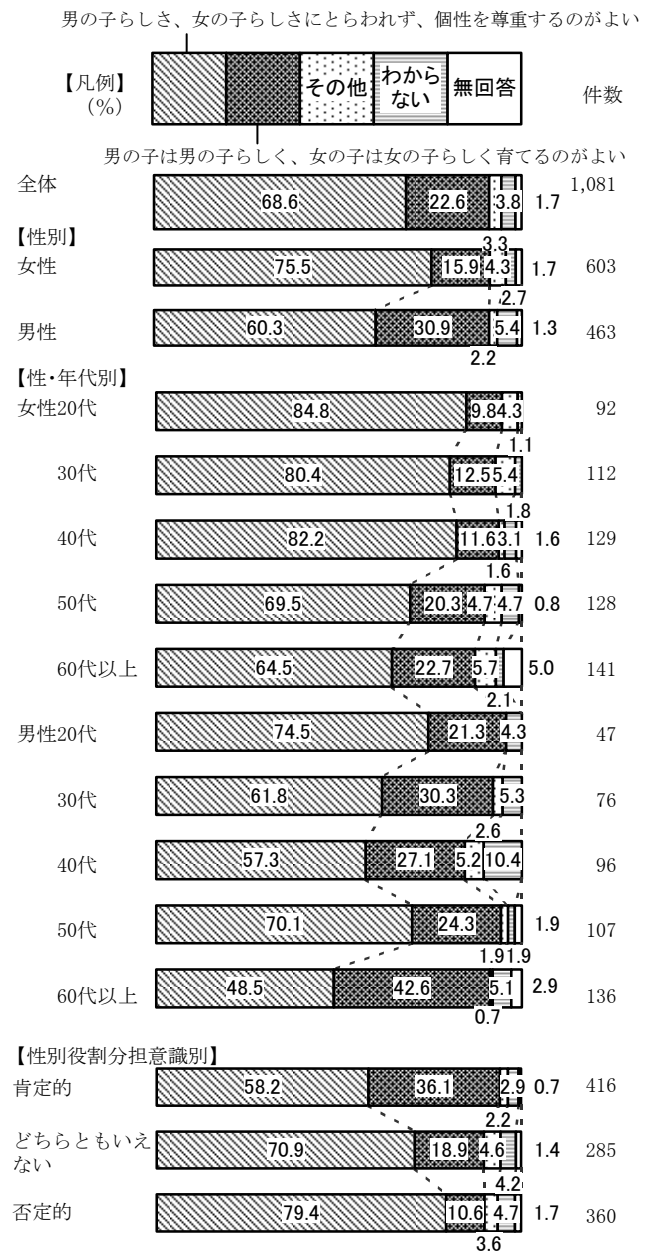
(※) 「希望から現状を引いた値」であり、プラスは現状より希望度が高いことを示す。

5 子どもへの男女共同参画教育について

5-1 子育てについての考え方

問15 あなたは、子育てについてどのような考えをお持ちですか。(1つだけ)

- 子育てについての考え方は、「男の子らしさ、女の子らしさにとらわれず、個性を尊重するのがよい」が68.6%を占め、「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てるのがよい」(22.6%)を46.0ポイント上回っている。
- 性別で見ると、「男の子らしさ、女の子らしさにとらわれず、個性を尊重するのがよい」は、男性(60.3%)よりも女性(75.5%)の割合が高く、「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てるのがよい」は、女性(15.9%)よりも男性(30.9%)で高くなっている。
- 性・年代別で見ると、「男の子らしさ、女の子らしさにとらわれず、個性を尊重するのがよい」は、女性40代以下で約8割を占めている。一方、「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てるのがよい」は、男性60代以上(42.6%)で高くなっている。
- 性別役割分担意識(問6)別で見ると、「男の子らしさ、女の子らしさにとらわれず、個性を尊重するのがよい」は、性別役割分担に否定的な人(79.4%)で高く、「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てるのがよい」は、性別役割分担に肯定的な人(36.1%)で高くなっている。



市の過去調査との比較

- 過去の調査と比較すると、「男の子らしさ、女の子らしさにとらわれず、個性を尊重するのがよい」は、平成13年(61.5%)から平成17年(55.9%)にかけて減少したが、平成20年62.3%、平成23年68.6%と増加している。

(%)

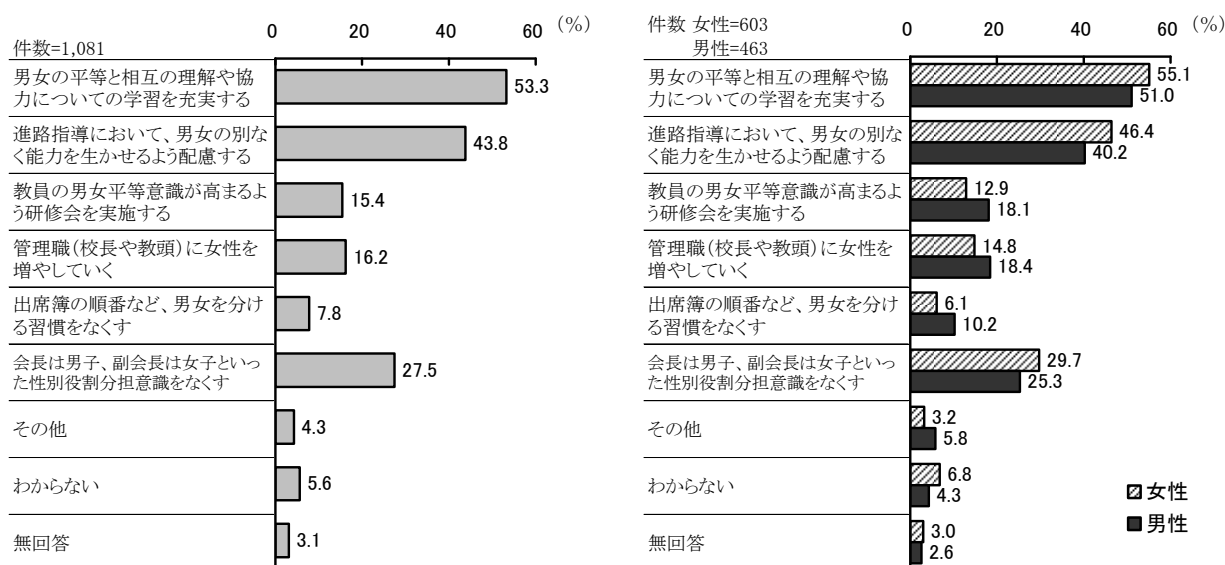
	男の子らしさ、女の子らしさにとらわれず、個性を尊重するのがよい	男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てるのがよい	その他	わからない	無回答
豊橋市(H23.6)	68.6	22.6	3.3	3.8	1.7
女性	75.5	15.9	4.3	2.7	1.7
男性	60.3	30.9	2.2	5.4	1.3
豊橋市(H20.5)	62.3	28.0	4.1	3.2	2.4
女性	67.7	21.7	5.8	3.4	1.4
男性	56.0	36.7	2.2	3.0	2.2
豊橋市(H17.5)	55.9	33.9	3.3	3.3	3.6
女性	61.6	27.0	3.9	4.1	3.4
男性	48.4	43.5	2.3	2.3	3.5
豊橋市(H13.8)	61.5	29.1	3.4	3.5	2.6
女性	66.9	24.3	3.9	2.8	2.2
男性	54.8	36.2	2.8	3.6	2.6

5-2 男女平等のための学校教育のあり方

問16 男女平等の人間関係をつくるために、学校教育の場で何が必要だと思いますか。

(2つまで)

- 男女平等の人間関係をつくるために、学校教育の場でどのようなことに力を入れるとよいかたずねたところ、「男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する」が53.3%で最も高く、次いで「進路指導において、男女の別なく能力を生かせるよう配慮する」が43.8%、「会長は男子、副会長は女子といった性別役割分担意識をなくす」が27.5%となっている。
- 性別でみても大きな差はみられない。
- 性・年代別でみると、「男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する」は女性50代(67.2%)で、「管理職(校長や教頭)に女性を増やしていく」は女性20代(26.1%)、男性20代(25.5%)、30代(25.0%)で、「出席簿の順番など、男女を分ける習慣をなくす」は男女ともに20代で高くなっている。



性・年代	件数	必要と思われる項目 (%)									
		男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する	進路指導において、男女の別なく能力を生かせるよう配慮する	教員の男女平等意識が高まるよう研修会を実施する	管理職(校長や教頭)に女性を増やしていく	出席簿の順番など、男女を分ける習慣をなくす	会長は男子、副会長は女子といった性別役割分担意識をなくす	その他	わからない	無回答	
全体	1081	53.3	43.8	15.4	16.2	7.8	27.5	4.3	5.6	3.1	
女性・年代	女性20代	92	41.3	39.1	13.0	26.1	15.2	34.8	2.2	7.6	1.1
	30代	112	50.0	50.9	9.8	17.9	7.1	32.1	5.4	7.1	0.9
	40代	129	58.9	48.1	15.5	10.9	7.0	31.8	3.1	7.0	0.8
	50代	128	67.2	43.0	10.9	13.3	2.3	28.1	2.3	5.5	3.1
	60代以上	141	53.2	49.6	14.2	9.9	2.1	24.1	2.8	7.1	7.8
	男性20代	47	40.4	48.9	21.3	25.5	27.7	23.4	4.3	-	-
	30代	76	44.7	32.9	18.4	25.0	7.9	27.6	10.5	3.9	-
	40代	96	51.0	38.5	14.6	17.7	9.4	21.9	10.4	5.2	1.0
	50代	107	52.3	43.0	16.8	18.7	12.1	26.2	4.7	2.8	1.9
	60代以上	136	56.6	39.7	20.6	12.5	4.4	26.5	1.5	6.6	6.6

- 性・婚姻別でみると、「進路指導において、男女の別なく能力を生かせるよう配慮する」は女性既婚（49.6%）で高くなっている。

	件数	充実する	男女の平等と相互の学習を	進路指導において、男女の別なく能力を生かせる	教員の男女平等意識が高まるよう研修会を実施する	管理職（校長や教頭）に女性を増やしていく	出席簿の順番など、男女を分ける習慣をなくす	会長は男子、副会長は女子といった性別役割分担意識をなくす	その他	わからない	無回答
全体	1081	53.3	43.8	15.4	16.2	7.8	27.5	4.3	5.6	3.1	
性・婚姻	女性既婚	427	56.7	49.6	12.4	12.6	6.8	30.9	2.8	6.1	2.3
	未婚	171	52.0	39.8	14.0	19.3	4.7	27.5	4.1	8.8	2.9
	男性既婚	342	54.4	40.1	18.4	17.3	9.1	24.3	5.0	4.4	2.6
	未婚	118	40.7	39.8	17.8	22.0	13.6	28.8	8.5	4.2	1.7

市の過去調査との比較

- 過去の調査と比較すると、「進路指導において、男女の別なく能力を生かせるよう配慮する」は平成13年（57.6%）から平成23年（43.8%）まで減少し続けている。また、「管理職（校長や教頭）に女性を増やしていく」「会長は男子、副会長は女子といった性別役割分担意識をなくす」は平成13年から平成20年にかけて増加していたが、平成23年は減少している。

(%)

	男女の平等と相互の学習を充実する	進路指導において、男女の別なく能力を生かせるよう配慮する	教員の男女平等意識が高まるよう研修会を実施する	管理職（校長や教頭）に女性を増やしていく	出席簿の順番など、男女を分ける習慣をなくす	会長は男子、副会長は女子といった性別役割分担意識をなくす	その他	わからない	無回答
豊橋市(H23.6)	53.3	43.8	15.4	16.2	7.8	27.5	4.3	5.6	3.1
女性	55.1	46.4	12.9	14.8	6.1	29.7	3.2	6.8	3.0
男性	51.0	40.2	18.1	18.4	10.2	25.3	5.8	4.3	2.6
豊橋市(H20.5)	51.0	47.8	15.3	20.5	6.7	36.1	3.5	-	2.9
女性	51.8	49.1	14.8	21.4	5.9	34.6	2.5	-	2.3
男性	50.6	46.0	16.7	18.8	7.7	36.9	5.0	-	3.6
豊橋市(H17.5)	51.5	54.3	12.0	18.2	5.9	31.9	2.6	-	4.3
女性	53.9	54.9	10.7	20.0	5.4	29.3	2.1	-	4.2
男性	47.7	53.0	14.3	16.4	6.8	36.0	3.5	-	4.2
豊橋市(H13.8)	51.0	57.6	13.3	15.7	6.5	31.0	2.1	-	3.8
女性	52.7	58.8	12.2	17.8	7.1	30.8	1.4	-	3.2
男性	48.8	55.8	15.2	12.7	5.9	31.0	3.1	-	4.1

(※) -は、調査していない項目

6 高齢化・福祉について

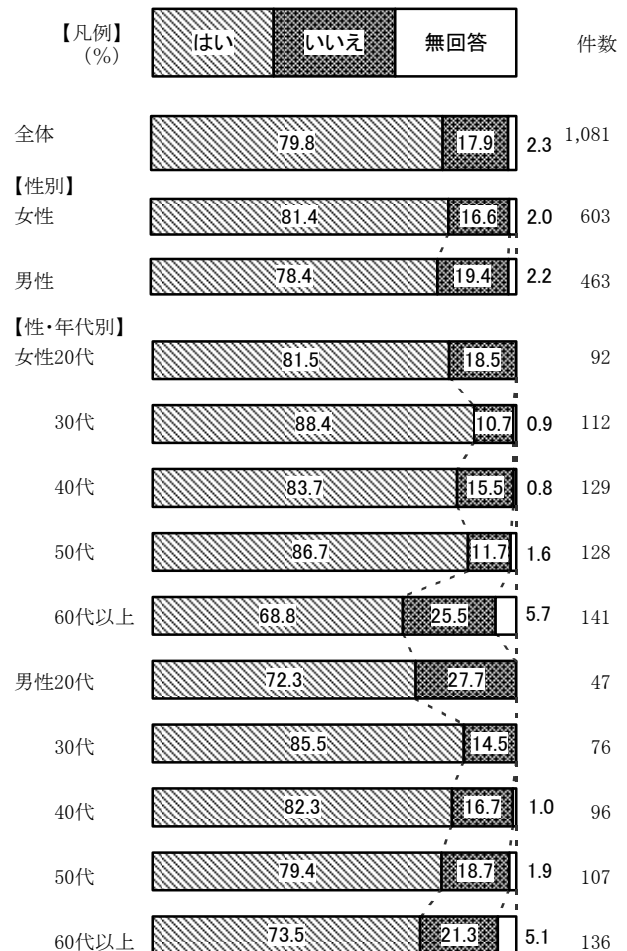
6-1 老後の不安の有無

問17 あなたは、自分の老後について、不安を感じていますか。(1つだけ)

- 老後の不安の有無についてたずねたところ、「はい(ある)」が79.8%を占めている。
- 性別でみても大きな差はみられない。
- 性・年代別で見ると、「はい(ある)」はほとんどの性・年代層で7割を超えており、特に女性30代(88.4%)で高くなっている。一方、「いいえ(ない)」は女性60代以上(25.5%)、男性20代(27.7%)、60代以上(21.3%)で2割以上となっている。

市の過去調査との比較

- 過去の調査との比較は、平成17年以前は選択肢が異なるため一概に比較することはできないが、平成20年と比較しても「はい(不安がある)」は2.7ポイント減少し、「いいえ(不安はない)」は4.8ポイント増加している。



(%)

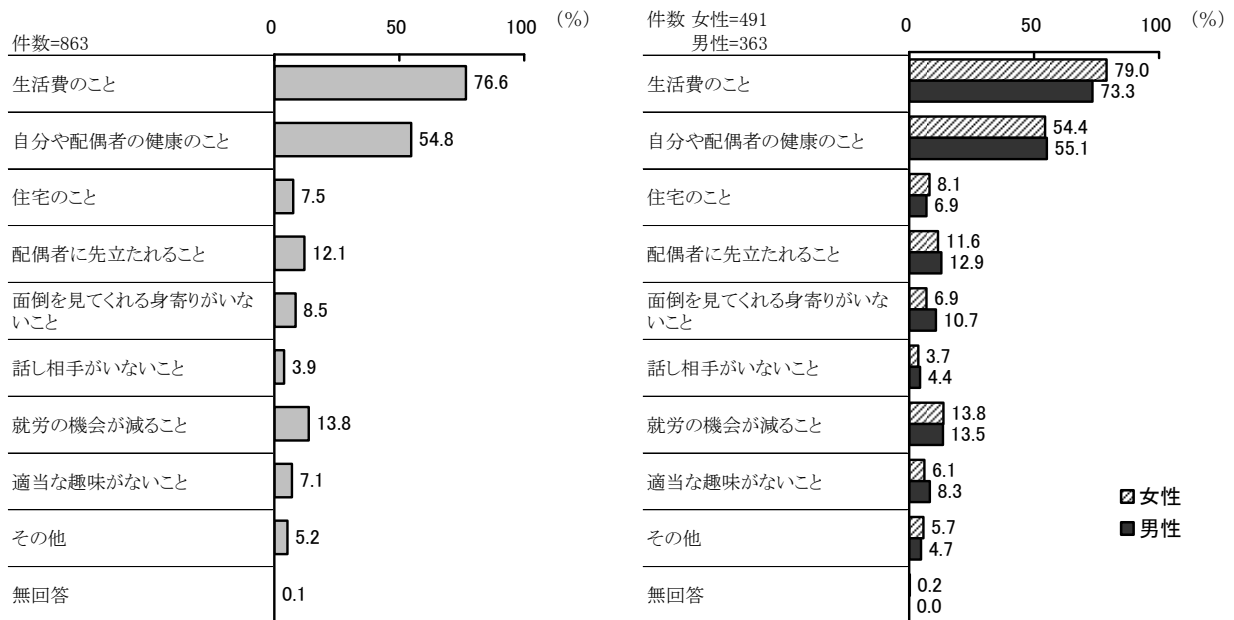
	はい	いいえ	無回答
豊橋市(H23.6)	79.8	17.9	2.3
女性	81.4	16.6	2.0
男性	78.4	19.4	2.2
豊橋市(H20.5)	82.5	13.1	4.4
女性	84.7	11.7	3.6
男性	80.4	14.5	5.2
豊橋市(H17.5)	91.7	3.3	5.0
女性	92.2	3.7	4.1
男性	90.9	2.8	6.3
豊橋市(H13.8)	91.1	5.5	3.4
女性	92.3	5.3	2.4
男性	89.9	5.7	4.4

6-2 老後に不安を感じていること

<問17で不安を感じていると答えた方にお聞きします。>

問17-1 それは、どのような不安ですか。(2つまで)

- 老後の不安は、「生活費のこと」が76.6%で最も高く、次いで「自分や配偶者の健康のこと」が54.8%となっている。
- 性別でも、大きな差はみられない。
- 性・年代別でみると、「生活費のこと」は男女ともに50代以下で高く、特に男性20代(91.2%)では9割を超えている。また、「配偶者に先立たれること」は男女ともに60代以上で高くなっている。



		件数	生活費のこと	自分や配偶者の健康のこと	住宅のこと	配偶者に先立たれること	面倒を見てくれる身寄りがいないこと	話し相手がないこと	就労の機会が減ること	適当な趣味がないこと	その他	無回答
全体		863	76.6	54.8	7.5	12.1	8.5	3.9	13.8	7.1	5.2	0.1
性・年代	女性20代	75	88.0	44.0	6.7	10.7	6.7	2.7	16.0	4.0	4.0	-
	30代	99	87.9	44.4	14.1	5.1	9.1	3.0	16.2	5.1	3.0	-
	40代	108	88.9	54.6	6.5	8.3	6.5	1.9	16.7	5.6	7.4	-
	50代	111	81.1	60.4	6.3	10.8	4.5	3.6	16.2	2.7	6.3	-
	60代以上	97	49.5	64.9	7.2	23.7	8.2	7.2	4.1	13.4	7.2	1.0
	男性20代	34	91.2	64.7	8.8	11.8	-	5.9	5.9	2.9	5.9	-
	30代	65	84.6	41.5	6.2	4.6	16.9	3.1	20.0	9.2	6.2	-
	40代	79	82.3	53.2	6.3	5.1	13.9	2.5	12.7	11.4	3.8	-
	50代	85	74.1	55.3	3.5	10.6	11.8	3.5	17.6	9.4	4.7	-
60代以上	100	52.0	62.0	10.0	27.0	7.0	7.0	9.0	6.0	4.0	-	

- 性・婚姻別でみると、「自分や配偶者の健康のこと」は男女ともに既婚での割合が高く、「面倒を見てくれる身寄りがいないこと」「話し相手がないこと」は男女ともに未婚で高くなっている。
- 性・共働きの状況別でみると、「生活費のこと」は共働きをしている女性（86.2%）で高くなっている。

	件数	生活費のこと	自分や配偶者の健康のこと	住宅のこと	配偶者に先立たれること	面倒を見てくれる身寄りがいないこと	話し相手がないこと	就労の機会が減ること	適当な趣味がないこと	その他	無回答	
全体	863	76.6	54.8	7.5	12.1	8.5	3.9	13.8	7.1	5.2	0.1	
性・婚姻	女性既婚	346	78.9	62.4	8.1	14.2	4.3	11.0	5.5	6.1	-	
	未婚	144	79.9	34.7	8.3	4.9	13.2	8.3	7.6	4.9	0.7	
	男性既婚	268	72.8	63.8	5.6	15.7	6.3	1.5	12.3	3.4	-	
	未婚	93	74.2	30.1	9.7	5.4	23.7	12.9	5.4	8.6	-	
性・共働き	女性共働きをしている	181	86.2	63.0	5.5	7.7	2.2	1.7	13.8	5.0	7.2	-
	共働きをしていない	166	70.5	61.4	10.8	20.5	7.2	1.8	8.4	5.4	4.8	-
	男性共働きをしている	142	76.1	59.2	4.9	11.3	8.5	0.7	18.3	9.9	2.8	-
	共働きをしていない	134	68.7	64.9	7.5	17.9	5.2	3.0	6.0	6.0	-	

市の過去調査との比較

- 選択肢がほぼ同じ平成20年の調査と比較すると、「自分や配偶者の健康のこと」は5.7ポイント減少し、「就労の機会が減ること」が5.4ポイント増加している。

(%)

	生活費のこと	自分や配偶者の健康のこと	住宅のこと	配偶者に先立たれること	面倒を見てくれる身寄りがいないこと	話し相手がないこと	就労の機会が減ること	適当な趣味がないこと
豊橋市(H23.6)	76.6	54.8	7.5	12.1	8.5	3.9	13.8	7.1
女性	79.0	54.4	8.1	11.6	6.9	3.7	13.8	6.1
男性	73.3	55.1	6.9	12.9	10.7	4.4	13.5	8.3
豊橋市(H20.5)	75.8	60.5	6.6	12.2	7.0	2.4	8.4	5.4
女性	76.6	59.3	6.4	11.2	7.7	2.2	8.3	3.9
男性	76.3	62.2	6.4	12.8	5.9	2.5	8.4	6.9
豊橋市(H17.5)	42.0	-	2.2	23.4	4.8	1.7	4.0	3.3
女性	45.9	-	2.1	20.4	4.9	1.3	4.1	2.6
男性	37.6	-	2.3	27.1	4.9	2.3	4.0	4.4
豊橋市(H13.8)	39.8	-	1.6	23.4	4.0	1.4	5.2	5.5
女性	44.0	-	1.4	19.5	4.3	1.8	5.5	4.9
男性	34.6	-	1.8	28.2	3.4	0.8	5.2	6.7

	自分や配偶者がねたきりや病気になること	自分の健康のこと	その他	特に不安は感じていない	無回答
豊橋市(H23.6)	-	-	5.2	-	0.1
女性	-	-	5.7	-	0.2
男性	-	-	4.7	-	0.0
豊橋市(H20.5)	-	-	4.7	0.2	0.3
女性	-	-	5.2	0.2	0.2
男性	-	-	4.2	0.2	0.5
豊橋市(H17.5)	54.2	34.4	1.2	3.3	5.0
女性	55.7	34.2	1.3	3.7	4.1
男性	51.4	34.6	1.2	2.8	6.3
豊橋市(H13.8)	54.1	32.3	1.7	5.5	3.4
女性	55.8	32.7	2.0	5.3	2.4
男性	53.0	30.5	1.6	5.7	4.4

(※) -は、調査していない項目